

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターハートピア出雲スマイル		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 2日		令和7年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 9日		令和7年 1月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 12月 19日		令和7年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	1ヶ所	(回答数) 1名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 6日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者が児童発達支援と併用して利用している為、生活場面の様子を把握できる。また、訪問先でのトラブルなどを個別訓練の中でSSTとして取り組める。	・連携ノートを通して毎週訪問先や家庭での様子を共有している。気になることがあれば、訪問時以外でも連絡をとり連携を図っている。 ・児童発達支援の療育場面で効果的だった支援方法を共有する。	・対人関係など課題に対するスキルを、児童発達支援の少人数の中で練習し、訪問先に般化できるようにする。
2	・訪問報告を丁寧に行っている。	・報告書に写真を10枚前後載せ、保護者に様子が分かりやすいようにしている。報告時に保護者の思いなどを聞き取り、その後の訪問や支援に反映させている。 ・報告書は訪問先とも共有し、統一した支援が行え	・保護者や訪問先に分かりやすい報告や意向の聞き取りを行い、訪問支援が統一した継続的な支援になるように努める。
3	・訪問先にとって訪問支援が役に立っている。	・定期的に訪問することで訪問先の担当者や情報共有や支援方法を検討している。	・訪問先をエンパワメントし、困り感が減ることによって、利用者も安心して過ごせるように知識を深める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・訪問先の意向が支援計画に盛り込まれていない。	・サービスの契約は保護者とするため、支援計画には利用者や保護者のニーズを反映するものと思っていた。	・訪問時や支援会議などを通して訪問先の意向も聞き取り、支援計画に反映していく。
2	・訪問支援について、他の職員や利用家庭以外の家庭に活動内容や支援内容が分からない。	・訪問支援員が療育場面でも利用者の担当をすることで支援方法を考えるため、他の職員が担当することがあまりない。 ・ホームページやお便りなどで訪問支援について紹介すべきという意識が弱かった。	・事業所内の支援会議や個別支援計画作成会議などを通して現在の状況や支援内容について共有・検討していく。 ・保護者や訪問先の下承を得られれば、お便りなどで訪問支援について紹介する。
3	・ペアトレなど保護者が参加できる研修会の開催が少なく、研修の情報提供も行えていない。	・訪問支援員の知識・経験不足	・児童発達支援と連携し、研修会や交流会の企画を検討する。 ・島根県東部発達障害者支援センターウィッシュなど専門機関の研修案内を掲示する。